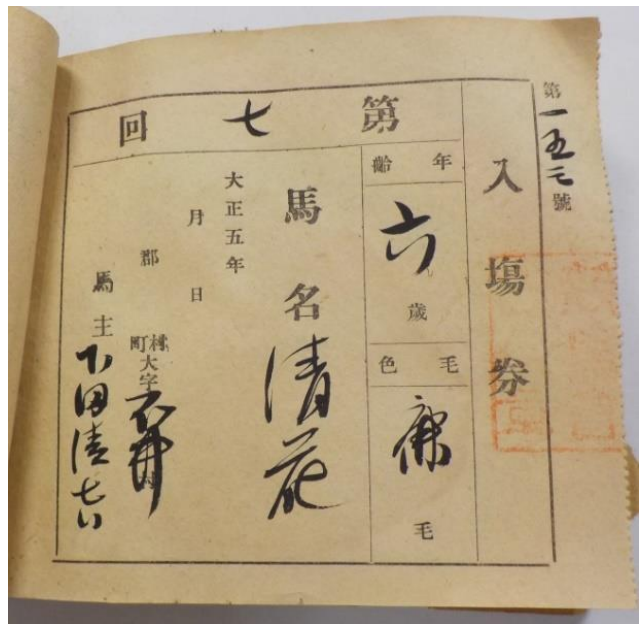


|   |           |                |           |       |        |
|---|-----------|----------------|-----------|-------|--------|
| 8 | 〔競馬会入場券控〕 | 大正5<br>(1916)年 | 北代田町自治会文書 | P8905 | No.582 |
|---|-----------|----------------|-----------|-------|--------|

前橋市北代田町は JR 前橋駅の北方 4 km ほどのところにあり、赤城白川と桃ノ木川に挟まれています。付近には商業施設や大学病院等がある国道 17 号が通っています。大正 5 年の春、この地で「北代田村大競馬会」が開催されました。

画像 A は、入場券の控えです。名前は「清花」、6 歳、毛色は鹿毛（かげ、一般的に茶褐色）の馬でした。馬主は、石井村（現・前橋市富士見町石井）の下田清吉です。



この「清花」は「馬匹入場受附」(No. 215) によれば、第 7 回で第 1 着になり、金 5 円を獲得したようです (画像 B・C)。

ほかにも、下細井村（現・前橋市下細井町）の関根辰三郎が馬主の「関勇」（7 歳、栗毛）、三原田村（現・渋川市赤城町三原田）の都丸勝之丞が馬主の「都錦」（4 歳、鹿毛）、小暮村（現・前橋市富士見町小暮）の根岸寅之助が馬主の「赤城嵐」（5 歳、栗毛）などが出場しました。

大胡村（現・前橋市大胡町）の女性と思われる佐藤トヨが馬主の「をひらん号」（10 歳、青毛）も出場しました (画像 D)。

「オモチヤ」という名前の馬も出場しました。「お餅屋か」と思うかもしれませんが、馬主の欄に「オモチヤクラブ」とあり、おもちゃクラブという団体名に基づくようです。

なお、入場券の控えはもう 1 点あり (No. 639)、こちらには「肥料号」という名前の馬がいます。馬主は細ヶ沢町（現・前橋市住吉町）の大島肥料店でした。

いずれもささやかではありますが、約 100 年前の、前橋地域や赤城山南麓の人々と馬との関係の一端がうかがえる興味深い史料です。

